

第6章 美術

1 中学校美術科の内容のまとめ

中学校美術科における内容のまとめは、以下のようになっている。

「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現 『A表現』(1)ア(2), [共通事項]」

「目的や機能などを考えた表現 『A表現』(1)イ(2), [共通事項]」

「作品や美術文化などの鑑賞 『B鑑賞』, [共通事項]」

3 中学校美術科における「内容のまとまりごとの評価規準」作成の手順

＜例1 第1学年の「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現「A表現」(1)ア(2)及び〔共通事項〕＞

【中学校学習指導要領 第2章 第6節 美術「第1 目標」】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)	(2)	(3)
対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

(中学校学習指導要領 P. 107)

【改善等通知 別紙4 図画工作・美術 (1) 評価の観点及びその趣旨 <中学校 美術>】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 - 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

(改善等通知 別紙4 P. 16)

※ 中学校美術科の評価の観点において「知識・技能」は、「造形的な視点を豊かにするための知識」と「創造的に表す技能」とに整理していることから二つに分けて示している。また、「思考・判断・表現」は、「A表現」において育成する発想や構想に関する資質・能力と「B鑑賞」において育成する鑑賞に関する資質・能力とに整理しているが、発想や構想と鑑賞の双方に重なる資質・能力の育成を重視していることからまとめて示している。

【中学校学習指導要領 第2章 第6節 美術「第2 各学年の目標及び内容」〔第1学年〕1 目標】

(1)	(2)	(3)
対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。	楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

（中学校学習指導要領 P. 107）

【改善等通知 別紙4 図画工作・美術（2）学年別の評価の観点の趣旨

＜中学校 美術＞第1学年】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 - 意図に応じて表現方法を工夫して表している。	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

（改善等通知 別紙4 P. 17）

① 各教科における「内容のまとめ」と「評価の観点」との関係を確認する。

「A表現」

(1) 表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。

ア 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。

「A表現」

(2) 表現の活動を通して、次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。

ア 発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。

(イ) 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表すこと。

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

（下線） … 「知識及び技能」のうちの「知識」に関する内容

（二重下線） … 「知識及び技能」のうちの「技能」に関する内容

（波線） … 「思考力、判断力、表現力等」に関する内容

② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

（１）「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】

○「知識・技能」のポイント

「知識」の評価については、第１学年の評価の観点及びその趣旨を「対象や事象を捉える造形的な視点について理解している」としており、具体的には〔共通事項〕の内容を示している。評価規準の作成では、〔共通事項〕(1)の「ア 形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果などを理解すること」や「イ 造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること」について文末を「～理解している」と示すことで，評価規準を作成することができる。

なお，「知識」の評価規準の作成に当たっては，「２ 内容の取扱いと指導上の配慮事項」の〔共通事項〕の取扱いにおいて，「(1)〔共通事項〕の指導に当たっては，生徒が造形を豊かに捉える多様な視点をもてるように，以下の内容について配慮すること」の各事項が「～を捉えること」としていることに留意する。（下記【参考】を参照）このことは，ここでの知識は単に新たな事柄として知ることや言葉を暗記することに終始するものではないことを示している。そのため，「知識」の評価を行う際には，〔共通事項〕の各指導事項に示されている「理解すること」とは，生徒一人一人の造形的な視点を豊かにするために，形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果及び全体のイメージや作風などで捉えるということを踏まえ，実感的に理解している状況を見取るようにすることが大切である。

【参考】指導計画の作成と内容の取扱い

２ 第２の内容の取扱いについては，次の事項に配慮するものとする。

(1)〔共通事項〕の指導に当たっては，生徒が造形を豊かに捉える多様な視点をもてるように，以下の内容について配慮すること。

ア〔共通事項〕のアの指導に当たっては，造形の要素などに着目して，次の事項を実感的に理解できるようにすること。

- (ア) 色彩の色味や明るさ，鮮やかさを捉えること。
- (イ) 材料の性質や質感を捉えること。
- (ウ) 形や色彩，材料，光などから感じる優しさや楽しさ，寂しさなどを捉えること。
- (エ) 形や色彩などの組合せによる構成の美しさを捉えること。
- (オ) 余白や空間の効果，立体感や遠近感，量感や動勢などを捉えること。

イ〔共通事項〕のイの指導に当たっては，全体のイメージや作風などに着目して，次の事項を実感的に理解できるようにすること。

- (ア) 造形的な特徴などを基に，見立てたり，心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉えること。
- (イ) 造形的な特徴などを基に，作風や様式などの文化的な視点で捉えること。

「技能」については，第１学年の評価の観点及びその趣旨を「意図に応じて表現方法を工夫して表している」としており，具体的には「Ａ表現」(2)の内容を示している。評価規準の作成で

は、題材に応じて「(ア) 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと」や「(イ) 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表すこと」について「～表している」と示すことで、評価規準を作成することができる。

○「思考・判断・表現」のポイント

「思考・判断・表現」については、第1学年の評価の観点及びその趣旨を「自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりしている」としており、具体的には「A表現」(1)及び「B鑑賞」の内容を示している。

ここでは、「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」の内容のまとまりを例にしているので、「A表現」(1)アの「(ア) 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること」について文末を、「～している」と示すことで、評価規準を作成することができる。また、発想や構想と鑑賞の双方に重なる資質・能力として「造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考える」ことなどについて留意しながら評価することになる。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

「主体的に学習に取り組む態度」については、第1学年の評価の観点及びその趣旨を「美術の創造活動の喜びを味わい楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている」としており、題材において設定した「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を、生徒が学習活動の中で楽しく身に付けようとしたり、発揮しようとしたりすることへ向かう態度を評価することになる。その際、よりよい表現を目指して構想や技能を工夫改善し、粘り強く取り組む態度などに着目する事が大切である。ここでは、第1学年の「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」の内容のまとまりを例にしているので、当該学年の評価の観点及びその趣旨と「A表現」の「内容のまとまり」に応じて評価規準を作成することができる。その際、評価の観点及びその趣旨に示されている「創造活動の喜び」は、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」が相互に関連する中で味わうものであることに留意する必要がある。

(2) 学習指導要領の「2 内容」及び「内容のまとまりごとの評価規準（例）」

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習指導要領 2 内容	〔共通事項〕	「A表現」	※内容には、学びに向かう力、人間性等について示されていないことから、該当学年の目標(3)及び「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」に該当する学習指導要領の内容を参考にする。
	(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果など	(1) 表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。 ア 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する	

	を理解すること。 イ 造形的な特徴などを 基に、全体のイメージや 作風などで捉えること を理解すること。 「A表現」 (2) 表現の活動を通して、次 のとおり技能に関する資 質・能力を育成する。 ア 発想や構想をしたこ となどを基に、表現する 活動を通して、技能に関 する次の事項を身に付 けることができるよう 指導する。 (ア) 材料や用具の生か し方などを身に付け、 意図に応じて工夫し て表すこと。 (イ) 材料や用具の特性 などから制作の順序 などを考えながら、見 通しをもって表すこ と。	活動を通して、発想や構 想に関する次の事項を 身に付けることができ るよう指導する。 (ア) 対象や事象を見つ め感じ取った形や色 彩の特徴や美しさ、想 像したことなどを基 に主題を生み出し、全 体と部分との関係な どを考え、創造的な構 成を工夫し、心豊かに 表現する構想を練る こと。	
--	--	---	--

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめりごとの評価規	・形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果などを理解している。 ・造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 ・材料や用具の生かし方など	・対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ，想像したことなどを基に主題を生み出し，全体と部分との関係などを考え，創造的な構成を工夫し，心豊かに表現する構想を練っている。	・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。 ※必要に応じて学年別の評価の観点の趣旨のうち「主

準 例	を身に付け、意図に応じて工夫して表している。 ・材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表している。		体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する。
----------------	--	--	-------------------------------------

＜例 2 第 2 学年及び第 3 学年 作品や美術文化などの鑑賞 「B 鑑賞」及び〔共通事項〕＞

【中学校学習指導要領 第 2 章 第 6 節 美術「第 1 目標」】及び【改善等通知 別紙 4 図画工作・美術（1）評価の観点及びその趣旨 ＜中学校 美術＞】

＜例 1 と同様＞

【中学校学習指導要領 第 2 章 第 6 節 美術「第 2 各学年の目標及び内容」

【第 2 学年及び第 3 学年】 1 目標】

(1)	(2)	(3)
対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

（中学校学習指導要領 P. 107）

【改善等通知 別紙 4 図画工作・美術（2）学年別の評価の観点的趣旨

＜中学校 美術＞第 2 学年及び第 3 学年】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 - 意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表している。	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

（改善等通知 別紙 4 P. 17）

① 各教科における「内容のまとめ」と「評価の観点」との関係を確認する。

「B鑑賞」

(1) 鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。

ア 美術作品などの見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。

(イ) 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。

イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めること。

(イ) 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

(下線)…「知識及び技能」のうちの「知識」に関する内容

(波線)…「思考力、判断力、表現力等」に関する内容

② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

（１）「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】

○「知識・技能」のポイント

「知識」の評価については、第１学年の評価の観点及びその趣旨を「対象や事象を捉える造形的な視点について理解している」としており、具体的には〔共通事項〕の内容を示している。したがって評価規準についての考え方や作成の手順などは、例１と同様である。

「技能」については、具体的には「Ａ表現」（２）の内容を示していることから、独立した「Ｂ鑑賞」の題材では、内容のまとまりごとでは評価規準として位置付けない。

○「思考・判断・表現」のポイント

「思考・判断・表現」については、第１学年の評価の観点及びその趣旨を「自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている」としており、具体的には「Ａ表現」（１）及び「Ｂ鑑賞」の内容を示している。

ここでは、「作品や美術文化などの鑑賞」の内容のまとまりを例にしているので、「Ｂ鑑賞」（１）アの「（ア）造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること」について、文末を「～している」と示すことで、評価規準を作成することができる。また、発想や構想と鑑賞の双方に重なる資質・能力として「自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考える」ことなどについて留意しながら評価することになる。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

「主体的に学習に取り組む態度」については、第１学年の評価の観点及びその趣旨を「美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている」としており、題材において設定した「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を、生徒が学習活動の中で主体的に身に付けようとしたり、発揮しようとしたりすることへ向かう態度を評価することになる。その際、作品のよさや美しさなどを新しい視点を探しながら見方や感じ方を広げようと粘り強く取り組む態度などに着目する事が大切である。ここでは、第２学年及び第３学年の「作品や美術文化などの鑑賞」の内容のまとまりを例にしているので、当該学年の評価の観点及びその趣旨と「Ｂ鑑賞」の「内容のまとまり」に応じて評価規準を作成することができる。その際、評価の観点及びその趣旨に示されている「創造活動の喜び」は、「知識」と「思考力、判断力、表現力等」が相互に関連する中で味わうものであることに留意する必要がある。

（２）学習指導要領の「２ 内容」及び「内容のまとめりととの評価規準（例）」

学習指導要領 ２ 内容	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	〔共通事項〕 (1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果などを理解すること。 イ 造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。	「B鑑賞」 (1) 鑑賞の活動を通して，次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。 ア 美術作品などの見方や感じ方を深める活動を通して，鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして，美意識を高め，見方や感じ方を深めること。 (イ) 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして，美意識を高め，見方や感じ方を深めること。 イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める活動を通して，鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近な環境の中に見られる造形的な美	※内容には，学びに向かう力，人間性等について示されていないことから，該当学年の目標(3)及び「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」に該当する学習指導要領の内容を参考にする。

		しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めること。 (イ) 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気づき、美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。	
--	--	---	--

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準例	・形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果などを理解している。 ・造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。	・造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして，美意識を高め見方や感じ方を深めている。 ・目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして，美意識を高め，見方や感じ方を深めている。 ・身近な環境の中に見られる	・美術の創造活動の喜びを味わい主体的に作品や美術文化などの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 ※学年別の観点の趣旨（主体的に学習に取り組む態度）及び「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」に該当する学習指導要領の内容を基に作成。

		造形的な美しさなどを感じ取り，安らぎや自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして，見方や感じ方を深めている。 ・日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから，伝統や文化のよさや美しさを感じ取り，諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き，美術を通した国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして，見方や感じ方を深めている。	
--	--	--	--